

【サブカル・日本文学】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
人と文学 (J102)	1	選択	1年 前期	演習	北原 泰邦
【キーワード】 夏目漱石、明治の文学、小説読解力、文学研究の方法					
【授業内容・授業の目的】 近代文学の代表的文学作品を精読することで、小説の多様なアプローチの方法を学び、文学作品の特質やその時代背景を探究することを目標とする。夏目漱石「坊っちゃん」を読んで、小説の本文を丁寧に鑑賞することで、作品の時代背景や読みどころを導き出し、作品の多様な読みの可能性を掘り下げて、それをどう評価するのかを身につける。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業は、近代文学の代表的作品を精読してその文学的特徴を理解することを目標とする。そのため授業では、資料作成や小レポートなどを通して、文学研究の基礎的な方法を身につけていき、その成果を文学研究レポートとして完成させる。 (到達目標) 知識・理解…文学作品の時代背景や語句や言葉の意味を身につけて作品内容を理解することができる。 技能・表現…小説の文脈や表現の特徴を理解した上で、自分の読み方・意見を発表することができる。 思考・判断…文学作品の読みどころを発見し、作品の文脈に沿った読解力を身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス	「坊っちゃん」を通読する(120分)			
2週	近代小説についての解説	「坊っちゃん」を通読する(120分)			
3週	文学作品の評価基準を考える	「坊っちゃん」の感想文をまとめる(120分)			
4週	「坊っちゃん」第一章を読む	「坊っちゃん」第一章の精読・問題の整理(30分)			
5週	「坊っちゃん」第二章を読む	「坊っちゃん」第二章の精読・問題の整理(30分)			
6週	「坊っちゃん」第三章を読む	「坊っちゃん」第三章の精読・問題の整理(30分)			
7週	「坊っちゃん」第四章を読む	「坊っちゃん」第四章の精読・問題の整理(30分)			
8週	「坊っちゃん」第五章を読む	「坊っちゃん」第五章の精読・問題の整理(30分)			
9週	「坊っちゃん」第六章を読む	「坊っちゃん」第六章の精読・問題の整理(30分)			
10週	「坊っちゃん」第七章を読む	「坊っちゃん」第七章の精読・問題の整理(30分)			
11週	「坊っちゃん」第八章を読む	「坊っちゃん」第八章の精読・問題の整理(30分)			
12週	「坊っちゃん」第九章を読む	「坊っちゃん」第九章の精読・問題の整理(30分)			
13週	「坊っちゃん」第十章を読む	「坊っちゃん」第十章の精読・問題の整理(30分)			
14週	「坊っちゃん」第十一章を読む	「坊っちゃん」第十一章の精読・問題の整理(30分)			
15週	レポート論文の書き方を学ぶ	レポート作成・執筆(210分)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験「レポート」(70%)、受講態度(30%) 知識・理解…演習発表において、作品の時代背景や語句や言葉の意味を理解できたかを評価する。 技能・表現…レポートを通して、小説表現の特徴についての読み方や意見を提示できたかを評価する。 思考・判断…レポートを通して、作品に対する解釈・見解を論理的にまとめられたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】 夏目漱石『坊っちゃん』(集英社文庫版)					
【参考書等】 『坊っちゃん事典』(勉誠出版)、『近代文学注釈体系 夏目漱石集Ⅱ』(角川書店)、『坊っちゃんの世界』(平岡敏夫著 塙書房)、『漱石一母に愛されなかった子』(三浦雅士著 岩波新書)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 日本の代表的文豪・夏目漱石の代表作『坊っちゃん』を読んで、文学作品の奥深さを堪能しましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
現代思想 (J227)	2	選択	1年 後期	講義	上田 渡
【キーワード】 幸福とは何か 自由になる方法 言語 社会 他者 ニーチェ ヴィトゲンシュタイン					
【授業内容・授業の目的】 現実的な問題から哲学的テーマを導き出していく。「わたしとは誰か」「幸せとは何か」「真実、ほんとうとはどこにあるのか」「他人とは何者か」「こことはどこにあるのか」など、日常生活の中でいろいろと考えたり、悩んだりすることの哲学的意味をみんなで問いただしていききたい。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：近代～現代の思想の流れ、考え方の変化について知る。 思考・判断：自分の生活や生き方に結びつけて考えていく。 関心・意欲・態度：これからの自分の生き方について、ある程度予測することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	テーマ 幸せとは何か①				
2週	テーマ 幸せとは何か②		配布プリントの下読みなど(4時間)		
3週	テーマ 幸せとは何か③		配布プリントの下読みなど(4時間)		
4週	テーマ 幸せとは何か④		配布プリントの下読みなど(4時間)		
5週	テーマ 私とは誰のことか①		配布プリントの下読みなど(4時間)		
6週	テーマ 私とは誰のことか②		配布プリントの下読みなど(4時間)		
7週	テーマ 私とは誰のことか③		配布プリントの下読みなど(4時間)		
8週	テーマ 自由とは何か①		配布プリントの下読みなど(4時間)		
9週	テーマ 自由とは何か②		配布プリントの下読みなど(4時間)		
10週	テーマ 自由とは何か③		配布プリントの下読みなど(4時間)		
11週	テーマ 生きるとはどういうことか①		配布プリントの下読みなど(4時間)		
12週	テーマ 生きるとはどういうことか②		配布プリントの下読みなど(4時間)		
13週	テーマ 生きるとはどういうことか③		配布プリントの下読みなど(4時間)		
14週	現代思想の問題についてのまとめ①		自分なりのテーマを考える(6時間)		
15週	現代思想の問題についてのまとめ②		自分なりのテーマを考える(6時間)		
【成績評価の方法・基準】 授業中の発言回数・内容等 25%、テーマごとの授業感想文など 25%、定期試験(試験、レポート) 50% 技能・表現：自分の考えをわかりやすく述べることができるかどうか。 思考・判断：問題を論理的な思考方法で解決できるかどうか。 関心・意欲・態度：授業中の問いかけに真剣な態度で答えていくことができるかどうか					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 プリント配布					
【参考書等】 『私のための現代思想』高田明典 光文社文庫 『哲学用語図鑑』正・続 プレジデント社					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業中は常に自分の問題にひきつけて、具体的に考えていく態度を維持しよう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
古典文学の流れ (J103)	2	選択	1年 前期	講義	高野 英夫
【キーワード】 恋愛論・マンガ表現・文学史					
【授業内容・授業の目的】 古典文学史の流れを確認しながら、恋愛の要素のある古典作品を、マンガなどを使って講義形式で理解し、質疑応答や確認プリントで理解を深める授業を行う。恋愛や家族などの具体例から日本文化を理解することを授業の目的としている。					
【授業の到達目標（学習成果）】 授業の目標は古典文学史を総合的、体系的に理解できるようになることである。 ①古典文学の基礎知識を理解し、物語を解釈できる。②古文の表現から人間関係や物語の構造を考察することができる。③習得した知識を活かし、歴史的、文化的背景を踏まえ古典文学史を把握できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	古典文学史の概略と社会制度や家族制度について？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
2週	『古事記』スサオノとヤマトタケルとは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
3週	『万葉集』額田王とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
4週	『万葉集』大津皇子とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
5週	『竹取物語』かぐや姫とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
6週	『落窪物語』落窪の姫君とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
7週	『伊勢物語』在原業平とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
8週	『蜻蛉日記』道綱の母とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
9週	『和泉式部日記』和泉式部とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
10週	『枕草子』清少納言とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
11週	『源氏物語』光源氏とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
12週	『更級日記』孝標の娘とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
13週	『堤中納言物語』虫めづる姫君とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
14週	『百人一首』とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
15週	『とはずがたり』とは？		ネットや解説本などで調べる（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 レポート60%を基本に、授業への参加度、質疑応答時の発言、授業ごとの簡易な意見感想レポートを加味して総合的に評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 古典作品のマンガ化されたもののプリント、作品本文のプリントを配布する。					
【参考書等】 山本敦子『源氏物語の時代』（朝日新聞社）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は講義形式ですが、質疑応答もありますので、自分の意見、疑問等を考えながら授業に臨んでください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
近代文学の流れ (J104)	2	選択	1年 前期	講義	田中 愛
【キーワード】 明治から第二次世界大戦前後までの日本文学（小説）、文学史、文体、時代と文学との関わり					
【授業内容・授業の目的】 近代の作家とその主な作品について、時代との関わりを意識しつつ、何がどのように表現されているのかを理解できるようになる。また、実際に原文を読み、文体の特徴等を分析できるようになる。近代の小説の生成を、時代の流れと共に理解し、作品の特徴や価値を理解できるようになることが目標である。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：近代の文学がどのような変遷を遂げていき、どのような特徴を持つのかを、時代との関連も含め、理解できるようになる。 思考・判断：近代文学の主要な作品について、文学史上の位置づけと特徴について考え、価値を見出せるようになる。 関心・意欲・態度：自主的に作品を読み広げ、研究文献も読めるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	近代という時代の特徴、及び文学とのかかわりの説明	日本の近代とそれ以前との違いについて考え、調べて書き出してくる（180分）			
2週	近代文学の流れと基本事項を確認①自然主義まで DVD	明治時代における出来事やどのような作家がいたかを調べる（240分）			
3週	近代文学の流れと基本事項を確認②自然主義以降 DVD	大正・昭和時代における出来事やどのような作家がいたかを調べる（240分）			
4週	明治初期の文学	明治20年までの主な作品に何があるか調べ、あらすじを読んで特徴を考える（240分）			
5週	明治20年ころの文学 坪内逍遙と二葉亭四迷『浮雲』	『浮雲』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
6週	明治30年までの文学 樋口一葉『たけくらべ』など	『たけくらべ』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
7週	明治30年代の文学 与謝野晶子『みだれ髪』	『みだれ髪』を読んで、鑑賞を行う（240分）			
8週	泉鏡花『高野聖』	『高野聖』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
9週	泉鏡花『天守物語』 映画と原文の比較	『天守物語』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
10週	明治40年頃の文学 島崎藤村と田山花袋	『蒲団』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
11週	小テスト・夏目漱石と森？外	漱石と？外について生い立ちや作品の特徴、文学史的な位置づけ等を調べ、比較する（240分）小テストの勉強（60分）			
12週	谷崎潤一郎『刺青』・小テスト返却と解説	『刺青』を読み、分からない言葉を調べる（240分）			
13週	大正期の文学 志賀直哉・有島武郎など	『城の崎にて』を読み、分からない言葉を調べる（120分） レポートを書く（120分）			
14週	大正期の文学 芥川龍之介・小林多喜二など	『歯車』を読み、分からない言葉を調べる（120分） レポートを書く（120分）			
15週	昭和の文学 堀辰雄・梶井基次郎など	『檸檬』を読み、分からない言葉を調べる（120分） レポートを書く（120分）			
【成績評価の方法・基準】 定期テスト（レポート）60％ 提出物20％ 小テスト 20％ 知識・理解：授業時の小テストにより、近代と文学の基本的な知識を持てたかを確認する。 思考・判断：レポートにおいて、選んだ作品の特徴や価値を見出し、論証できているかを評価する。 関心・意欲・態度：レポートにおいて、作品が分析でき、研究文献も踏まえて論考がまとめられるかをみる。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 適宜資料を配布する					
【参考書等】 安藤宏 『日本近代小説史』（中公選書） 『文豪ナビ』シリーズ（新潮文庫）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業で取り上げた作品は、全体を読んでみましょう。また、興味を持った作品の研究文献を図書館で借りるなどして読んでみると、さらに深い読解ができ、新しい魅力も見つかると思います。小テスト後は返却して解説します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
源氏物語 (J404)	2	選択	2年 後期	講義	高野 英夫
【キーワード】 恋愛論・マンガ表現・構造論					
【授業内容・授業の目的】 源氏物語の女性を取り上げ、マンガ教材を使って講義形式で理解し、質疑応答や確認プリントによって理解を深める授業を行う。女性論や恋愛論の観点から物語を構造的に考察する力を養成することを目的とする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 授業の目標は源氏物語を構造的に読めるようになることである。①古典文学の基礎知識を理解する。②古文の表現を分析し、構造的に考察する。③歴史的、文化的背景を踏まえ構造的に古典文学を読める。					
授業計画			準備学習等		
1週	『源氏物語』とは何か？	ネットや解説本などで調べる。(1時間)			
2週	桐壺の更衣とは誰か？	桐壺の更衣をネットや解説本で調べる。(1時間)			
3週	藤壺の宮とは誰か？	藤壺の宮をネットや解説本で調べる。(1時間)			
4週	空蝉とは誰か？	空蝉をネットや解説本で調べる。(1時間)			
5週	夕顔とは誰か？	夕顔をネットや解説本で調べる。(1時間)			
6週	六条の御息所とは誰か？	六条の御息所をネットや解説本で調べる。(1時間)			
7週	末摘花とは誰か？	末摘花をネットや解説本で調べる。(1時間)			
8週	葵の上・花散里とは誰か？	葵上・花散里をネットや解説本で調べる。(1時間)			
9週	源典侍・近江の君とは誰か？	源典侍をネットや解説本で調べる。(1時間)			
10週	朧月夜とは誰か？	朧月夜をネットや解説本で調べる。(1時間)			
11週	明石の君とは誰か？	明石の君をネットや解説本で調べる。(1時間)			
12週	玉鬘とは誰か？	玉鬘をネットや解説本で調べる。(1時間)			
13週	女三の宮とは誰か？	女三の宮をネットや解説本で調べる。(1時間)			
14週	紫の上とは誰か？	紫の上をネットや解説本で調べる。(1時間)			
15週	宇治十帖の世界とは？	宇治十帖の内容をネットや解説本で調べる。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 源氏物語の作品論・人物論を自己構築できたのかを、レポート60%を基本に、授業への参加度、質疑応答時の発言、授業ごとの確認テストを加味して総合的に評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 『源氏物語』のマンガ『あさきゆめみし』のプリント、『源氏物語』の本文のプリントを配布する。					
【参考書等】 山本敦子『源氏物語の時代』（朝日新聞社）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業は講義形式ですが、質疑応答もありますので、自分の意見、疑問等を考えながら授業に臨んでください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
幻想小説 (J405)	2	選択	2年 後期	講義	上田 渡
【キーワード】 語り 語り手 物語分析 物語構造					
【授業内容・授業の目的】 明治から現代までの幻想文学を輪読し、幻想文学世界の面白さについて分析していく。扱う作家は昨年の例だと泉鏡花、谷崎潤一郎、内田百閒、江戸川乱歩、夢野久作、日影丈吉、笹野頼子、村上春樹などである。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：小説における「語り」について理解することができる。 思考・判断：「語り」の構造分析をつかって、小説の新たな面白さを見つけることができるようになる。 関心・意欲・態度：「語り手」と読者の関係を意識しながら小説を読むことができるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	明治期の幻想小説①		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
2週	明治期の幻想小説②		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
3週	明治期の幻想小説③		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
4週	大正・昭和初期の幻想小説①		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
5週	大正・昭和初期の幻想小説②		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
6週	大正・昭和初期の幻想小説③		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
7週	大正・昭和初期の幻想小説④		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
8週	大正・昭和初期の幻想小説⑤		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
9週	大正・昭和初期の幻想小説⑥		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
10週	大正・昭和初期の幻想小説⑦		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
11週	戦後・現代の幻想小説①		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
12週	戦後・現代の幻想小説②		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
13週	戦後・現代の幻想小説③		配布資料の下読み・語釈（4時間）		
14週	戦後・現代の幻想小説④		単位レポートの作成準備（4時間）		
15週	まとめ		単位レポートの作成準備（4時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）80％ 輪読・意見など20％ 知識・理解：物語内容について十分な理解ができるかどうか。 思考・判断：物語分析の方法についてしっかりと理解できるかどうか。 関心・意欲・態度：興味を持って自主的に調査・授業での発言ができるかどうか					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 試験・レポート等返還日に各学科指定場所で返還します。詳細は各学期掲示でお知らせします。学生は必ず課題を受け取り、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。					
【テキスト】 毎回プリント配布					
【参考書等】 東雅夫『幻想文学入門』 ちくま文庫 菅原克也『小説のしくみ』 東京大学出版会					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 何回も本文を読んでくること。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
短編小説を読む (J205)	2	選択	1年 後期	講義	北原 泰邦
【キーワード】 小説読解力、文学研究の方法、課題探求力					
【授業内容・授業の目的】 近代文学の短編小説を精読することで短編小説を読む面白さを発見し、小説読解における基礎的方法の習得を目的とする。その上で、小説の評価・分析へのアプローチを探求し、文学作品研究の方法の基礎を身につけ、それを各自の読解の実践に応用する力を習得する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 短編小説の構造や文体を学びその特徴を理解し、発表資料作成を通して、文学研究の基礎的な方法を会得する。その成果を文学研究レポートとして完成させる。 (到達目標) 知識・理解：短編小説の読みどころを探り、作品の構造や内容を理解することができる。 思考・判断：短編小説の評価方法を考え、作品の文脈に沿った読解力を身につけることができる。 関心・意欲・態度：資料作成や小レポートで、調査した内容や作品評価を発表することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス		教科書の作品を通読する①(120分)		
2週	短編小説の方法を学ぶ		教科書の作品を通読する②(120分)		
3週	短編小説の評価基準を考える		教科書の作品に通読する③(120分)		
4週	有島武郎「一房の葡萄」を読む		「一房の葡萄」の精読・問題の整理(120分)		
5週	芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む		「蜘蛛の糸」の精読・問題の整理(120分)		
6週	小川未明「赤い蠟燭と人魚」を読む		「赤い蠟燭と人魚」の精読・問題の整理(120分)		
7週	谷崎潤一郎「刺青」を読む		「刺青」の精読・問題の整理(120分)		
8週	太宰治「魚服記」を読む		「魚服記」の精読・問題の整理(120分)		
9週	宮澤賢治「よだかの星」を読む		「よだかの星」の精読・問題の整理(120分)		
10週	江国香織「草之丞の話」を読む		「草之丞の話」の精読と整理(120分)		
11週	那須正幹「The End of the World」を読む		「The End of the World」の精読と整理(120分)		
12週	村上春樹「青が消える」を読む		「青が消える」の精読・問題の整理(120分)		
13週	よしもとばなな「バブーシュカ」を読む		「バブーシュカ」の精読・問題の整理(120分)		
14週	文学レポートの書き方について		レポートの資料収集とアウトライン作成(60分)		
15週	文学レポート論文の書き方		レポート作成・執筆(180分)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験「レポート」(70%)、受講態度(30%) 知識・理解：レポートにおいて、作品の読みどころや作品の構造内容を理解できたかを評価する。 思考・判断：レポートを通して、作品に対する解釈・見解を論理的にまとめられたかを評価する。 関心・意欲・態度：演習発表を通して、短編小説についての読み方・意見を提示できたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 北原泰邦・中野裕子編『児童文学の愉しみ—20の物語—』 翰林書房					
【参考書等】 前田愛著『文学テキスト入門』ちくま学芸文庫					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 日本文学の代表的な短編小説を毎回1作品読みます。作品を深く読み込むほど、その魅力は限りなく広がります。短編小説という小宇宙に飛び込んでみましょう。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
書道Ⅰ (J116)	1	選択	1年 前期	演習	泉 石心
【キーワード】 書道史理解、観察力、表現力					
【授業内容・授業の目的】 中国や日本の書道史に触れながら、各書体の特徴を理解した上で古典を臨書する演習形式で行う。文房四宝については、出来る限り本物を見せながら関心を持って取り組めるようにしていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 書道史や各書体の特徴を理解した上で臨書し、文字文化の知識や表現能力を身につけることを目標とする。 知識・理解：中国や日本の書道史を知ることができる。各書体の特徴を理解することができる。 技能・表現：臨書する中で問題点を発見したり工夫したりして表現することができる。 関心・意欲・態度：歴史的な背景にも関心を持ちながら、実技に集中して取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 文房四宝		文房四宝の種類について調べておく。(1時間)		
2週	中国・日本書道史 書体の変遷		文字の起源について調べておく。(1時間)		
3週	九成宮醜泉銘 特徴の理解と表現		楷書の特徴を考えておく。(1時間)		
4週	雁塔聖教 特徴の理解と表現		九成宮醜泉銘との違いを考えておく。(1時間)		
5週	自書告身帖 特徴の理解と表現		雁塔聖教序との違いを考えておく。(1時間)		
6週	蘭亭序① 行書の特徴		行書の特徴を考えておく。(1時間)		
7週	蘭亭序② 特徴の理解と表現		指定された部分のペン書き。(1時間)		
8週	書譜 特徴の理解と表現		草書の特徴を考えておく。(1時間)		
9週	細字仮名① 細筆による仮名单体		仮名单体のペン書き。(1時間)		
10週	細字仮名② 細筆による仮名单体		仮名单体の細筆書き。(1,5時間)		
11週	細字仮名③ 細筆による仮名連綿		仮名連綿のペン書き。(1時間)		
12週	蓬萊切 特徴の理解と表現		蓬萊切のペン書き。(1時間)		
13週	蓬萊切 臨書とまとめ		蓬萊切の臨書。(1時間)		
14週	漢字創作作品制作 章法		学習を思い出し、創作する書体を決めておく。(1時間)		
15週	作品制作 鑑賞とまとめ		半紙練習 (1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度 (50%) 提出物 [作品、コメントカード等] (50%) により評価する。 知識・理解：作品により各書体の特徴が十分理解できているかを評価する。 技能・表現：巡視や作品により用具の特徴を十分活かし表現できているかを評価する。 関心・意欲・態度：書道史にも関心を持ちながら集中して書作に取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 高校で使用されていた書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲの教科書。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 古典作品をしっかりと観察できないと書けない。じっくりと作品と向き合うことが大切です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
書道Ⅱ (J211)	1	選択	1年 後期	演習	泉 石心
【キーワード】 書道史理解、観察力、表現力					
【授業内容・授業の目的】 中国や日本の書道史に触れながら、各書体の特徴を理解した上で臨書や創作をする演習形態で行う。文房四宝については、出来るだけ本物を見せながら、関心を持って取り組めるようにしていく。漢字・仮名・篆刻・刻字など、書の幅広い分野を学習する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 中国や日本の書道史を学び、各書体の特徴を理解した上で臨書や創作に取り組み、文字文化の知識や表現能力を身に着けることを目標とする。 知識・理解：中国や日本の書道史を知ることができる。各書体の特徴を理解することができる。 技能・表現：臨書や創作をする中で問題点を発見したり工夫したりして表現することができる。 関心・意欲・態度：歴史的な背景にも関心を持ちながら、実技に意欲的に取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 県内の書道史	県内書道史に残る書家について調べておく。(1時間)			
2週	文房四宝 龍溪硯の歴史	文房四宝について調べておく。(1時間)			
3週	隸書 曹全碑 特徴の理解と表現	隸書について調べておく。(1時間)			
4週	篆書 甲骨文 特徴の理解と表現	甲骨文について調べておく。(1時間)			
5週	篆書 泰山刻石 特徴の理解と表現	小篆について調べておく。(1時間)			
6週	細字の学習① 般若心経	般若心経について調べておく。(1時間)			
7週	細字の学習② 般若心経	般若心経書き。(1,5時間)			
8週	細字の学習③ 般若心経	般若心経書き。(1,5時間)			
9週	篆刻① 白文の草稿と布字	自分の名前の印篆を調べておく。(0,5時間)			
10週	篆刻② 白文の刻	実用印との違いについて調べておく。(0,5時間)			
11週	篆刻③ 作品鑑賞 まとめ	白文の刻。(1,5時間)			
12週	刻字① 陽刻と陰刻	作品にする短文を考えておく。(0,5時間)			
13週	刻字② 陰刻による作品制作	作品制作。(1時間)			
14週	刻字③ 作品制作	作品制作。(1時間)			
15週	刻字④ 作品鑑賞 まとめ	作品制作。(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 受講態度(50%)、提出物[作品、コメントカード等](50%)により評価する。 知識・理解：作品により各書体の特徴が十分理解しているかを評価する。 技能・表現：巡視や作品により、道具の特徴を十分に活かして表現できているかを評価する。 関心・意欲・態度：書道史にも関心を持ちながら集中して書作に取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 高校で使用されていた書道Ⅰ、書道Ⅱ、書道Ⅲの教科書					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 古典作品をしっかりと観察できないと書けない。じっくりと作品と向き合うことが大切です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
ペン習字 (J212)	1	選択	1年 後期	演習	泉 石心
【キーワード】 文字バランス、理論理解、生活の中の書					
【授業内容・授業の目的】 手書きの文字がバランスよく美しく書けるように演習形態で学習する。 理論として、漢字の部首名や筆順、原稿用紙・はがき・封筒の書き方等、様々な様式の書き方も学習し、社会人に求められる書写能力を習得する。最終的には文章を自分の字で美しく体裁よく書けるようにする。					
【授業の到達目標（学習成果）】 パソコンの時代になっても書くことは決してなくなる。美しい文字が書けるようになるだけでなく、社会人に求められる文字についての全般を理解習得することを目標とする。 知識・理解：部首名や筆順等を覚え、様々な形式の書き方を理解することができる。 技能・表現：手本をよく見て文字をバランスよく書くことができる。 関心・意欲・態度：手書きの文字に関心を持ち、根気強く取り組むことができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション 自分の日頃の字の確認		活字とペン字の違いについて考える。(0,5時間)		
2週	楷書の書き方① 偏や傍のバランス		日頃の自分のノートの字の確認(0,5時間)		
3週	楷書の書き方② 一定の法則		楷書文字の演習 (1,5時間)		
4週	楷書の書き方③ 活字との違い		楷書文字の演習 (1,5時間)		
5週	筆順の学習		筆順の学習 (1時間)		
6週	部首名の学習		部首名の学習 (1時間)		
7週	文章書き① 横書き縦書き		指定された文章を書く。(1時間)		
8週	文章書き② ハガキ・封筒書き		指定された文章を書く。(1時間)		
9週	文章書き③ 速書き		指定された文章を書く。(1時間)		
10週	楷書のまとめ 履歴書		指定された文章を書く。(1時間)		
11週	行書の書き方① 文字バランス・特徴		行書文字の演習(0,5時間)		
12週	行書の書き方② 仮名連綿		行書の文章を書く。(1,5時間)		
13週	手紙の書き方①		連綿の演習。(1時間)		
14週	手紙の書き方②		手紙の文章を書く。(1時間)		
15週	楷書の復習 まとめ		手紙の文章を書く。(1時間)		
【成績評価の方法・基準】 受講態度 (50%)、提出物 (30%)、小テスト (20%) により評価する。 知識・理解：形の取り方の理解、部首名や筆順を正しく理解しているかを評価する。 技能・表現：文字を美しく書けるか、様々な形式のものを体裁よく書けるかを評価する。 関心・意欲・態度：手書きの文字の関心を持ち、意欲的に集中して取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 授業中に適宜資料を配布する。					
【参考書等】 宮澤正明『常用漢字書きかた辞典』二玄社、狩山卷山『硬筆書写検定3級合格のポイント』日本習字普及協会					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 美しい文字を見て繰り返し練習し、活字を自分の字で美しく書けるように努力してほしい。繰り返しの練習が大切です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
朗読演習Ⅰ (J213)	1	選択	1年 後期	演習	田中 愛
【キーワード】 発声練習、絵本の読み聞かせ、朗読、絵本分析					
【授業内容・授業の目的】 図書館司書の現場スキルとして、絵本の読み聞かせをチーム練習で行い、聞き手に豊かに伝わる表現ができるようになる。同時に絵本の解釈鑑賞を通して、絵本の特性や価値を理解したり対象年齢について判断でき、よい絵本を選定できるようにする。またアナウンスや朗読の技術についても学び、表現力を養う。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：評価されている絵本を幅広く、多く知っており、対象年齢やその特性を判断・理解できる。 技能・表現：絵本の読み聞かせや朗読において、聞き手に効果的に伝えられるようになる。 関心・意欲・態度：グループワークに積極的に参加し、メンバーのスキルアップにも貢献できるようにする。また、評価の高い絵本を100冊200冊と読み進める意欲を持ち、幅広く絵本を扱えるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス 絵本カードの説明	絵本を3冊あげ、好きな理由を考える(120分)			
2週	発声の基本 発声練習	早口言葉を調べ、練習する(30分)			
3週	発声 落語「じゅげむ」課題練習	「じゅげむ」の練習(30分)			
4週	発声 新国劇「赤城山」課題練習	「赤城山」練習(30分)			
5週	発声 歌舞伎「白波五人男」課題練習	「白波五人男」練習(30分)			
6週	絵本の扱い方 読み聞かせの方法	読み聞かせ用の絵本を2～3冊選出し練習する(120分)			
7週	年齢別絵本鑑賞と絵本の読み聞かせ練習 赤ちゃん絵本	赤ちゃん絵本の特徴を考え、調べる(60分)			
8週	年齢別絵本鑑賞と絵本の読み聞かせ練習 2～3歳向け絵本	2～3歳向け絵本の特徴を考え、調べる(60分)			
9週	年齢別絵本紹介と絵本の読み聞かせ練習 4～5歳向け絵本	4～5歳向け絵本の特徴を考え、調べる(60分)			
10週	年齢別絵本紹介と絵本の読み聞かせ練習 6歳向け絵本	6歳向け絵本の特徴を考え、調べる(60分)			
11週	絵本のグループ発表	絵本発表の練習(60分)			
12週	絵本のグループ発表会	絵本発表の練習(60分)			
13週	朗読 グループ練習	朗読するものを決めて読むところを確定(60分)			
14週	朗読 グループ練習	朗読の練習(60分)			
15週	朗読個人発表会	朗読発表の練習(60分)			
【成績評価の方法・基準】 読み聞かせの発表30% 朗読の発表30% 提出物(絵本カード)20% 受講態度20% 知識・理解：多くの絵本を読んでいるか、絵本カードの枚数等から評価する。 技能・表現：絵本の読み聞かせや朗読において、基本スキルを踏まえ、聞き手に効果的に伝えられているかを、発表を通して評価する。 関心・意欲・態度：グループワークに積極的に参加し、チーム全員のスキルがアップしているかを発表から評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】 適宜資料を配布する					
【参考書等】 齋藤孝 『声に出して読みたい日本語』シリーズ(草思社) 片山ユキヲ 『花もて語れ』1～(小学館)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 それぞれ持参した絵本で練習をします。3～5冊ほど、読み聞かせにふさわしいと思われる本を選んでおいてください。朗読は、3分で読める日本語で書かれた小説や詩を選んでください。1月のレシテーションコンテストにもぜひチャレンジを考えましょう。司書資格を取りたい人には、履修をお勧めします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
朗読演習Ⅱ (J309)	1	選択	2年 前期	演習	田中 愛
【キーワード】 絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊び、パネルシアター、図書館での読み聞かせ会					
【授業内容・授業の目的】辰野町図書館、下諏訪図書館などで「読み聞かせの会」を実施する。発表に向けて、チームで絵本や紙芝居を選び、プログラムを作成、練習する。手遊びや紙芝居、ペープサート、パネルシアターについても学ぶ。読み聞かせや手遊び、紙芝居等のスキルを身につけ、子どもたちや保護者の方の前で、適切なお話の会を企画・実施できるようにすることが目標である。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：読み聞かせの会のプログラムの立て方を理解し、適切な絵本等の選択ができるようになる。 技能・表現：絵本の読み聞かせのより高いスキルを身につける。児童文化財の利用とすぐれた実演ができるようになる。 関心・意欲・態度：読み聞かせの会で、魅力的な発表ができるよう、チームでのプログラム作成と練習に積極的に参加でき、読み聞かせ会に相応しいプログラムを企画し、実施できるようにする。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス 過去の外部実習映像を見る		読み聞かせの会を実際に見学しておく（60分）		
2週	読み聞かせの基本的な技術確認		絵本を1冊選び読み聞かせ練習をする（60分）		
3週	紙芝居の練習		実際に紙芝居の現物を見ておく（40分）		
4週	紙芝居のグループ発表		発表のための練習をしておく（80分）		
5週	手遊びの練習		手遊びを本やネットから調べ練習する（60分）		
6週	パネルシアター・ペープサートについて		映像や図書館にある現物を見ておく（60分）		
7週	プログラム作成 テーマやメインの絵本等決定		使用する絵本候補を3冊ほど選んで持参（60分）		
8週	プログラム作成 その他の絵本決定		候補の絵本を数冊探して用意する（60分）		
9週	プログラム作成 手遊び等決定		手遊び等の候補を考える（60分）		
10週	プログラム作成 役割分担決定		どのような担当が必要か考える（60分）		
11週	実習における留意点等確認		外部実習のマナー等について考える（60分）		
12週	パネルシアターなど作成		必要な文具や材料を用意（60分）		
13週	読み聞かせの会リハーサル		自分の担当を練習（60分）		
14週	読み聞かせ実習（土曜日に振替）		自分の担当を練習（60分）		
15週	ビデオを見て反省会・記録の作成		実習の反省をまとめておく（60分）		
【成績評価の方法・基準】 外部での読み聞かせの発表50% 紙芝居の発表30% 受講態度20% 知識・理解：読み聞かせの会のプログラムの立て方、絵本の選び方などが理解できているかを評価する。 技能・表現：絵本の読み聞かせ、紙芝居等が効果的に演じられるかを、発表から評価する。 関心・意欲・態度：チームでのプログラム作成に積極的に参加しているか、読み聞かせ会に相応しいプログラムが用意できたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】適宜資料を配布する					
【参考書等】代田知子『読み聞かせわくわくハンドブック』（一声社）赤木かん子『かならず成功する読みきかせの本』（自由国民社）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 実習の場で、緊張しても実践できるように、しっかり何度も練習しておきましょう。 「朗読演習Ⅰ」を履修していなくても履修できます。司書資格を取りたい方にお勧めします。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
児童文学論 (J304)	2	選択	2年 前期	講義	中野 裕子
【キーワード】日本児童文学への理解、児童観、戦争児童文学、言葉によるコミュニケーション能力、国際平和への理解					
【授業内容・授業の目的】 明治から平成の児童文学史を概観しながら、日本児童文学のたどった歴史、表現を学ぶ。同時に戦時下における児童文学の道を知り、今日に至る日本の国際平和への理解・問題点を考える。授業ではそれぞれ関心のある作品について調べ、演習形式で発表・ディスカッションをふまえてそれぞれの問題意識を磨き、レポートとして自身の見解を表現する。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：児童文学の豊かな日本語の理解、専門的知識を身につけることができる。 技能・表現：児童文学作品の歴史的背景を調べ、その思想を考える上で、必要な資料の探し方、情報リテラシーを習得し、適切な方法で表現する力を身につけることができる。 思考・判断：文学を通じて戦争を考え、国際平和についての偏らない思考力を身につける。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス		今後の予定を学生便覧で確認しておく。		
2週	明治・大正の児童文学史概説		テキストの「児童文学の流れ」明治・大正篇を読む。		
3週	昭和の児童文学史、戦争児童文学概説		テキストの「児童文学の流れ」昭和・平成篇を読む。		
4週	昭和戦後、現代の児童文学概説、演習の説明		各自、演習の作品を決める。		
5週	講談社の絵本「忠勇美談」		テキストで戦時下の児童文学史を確認する。		
6週	土家由岐雄「かわいそうなぞう」		この作品に対する反論を調べる。		
7週	坪田譲治「三本の柿の木」		テキスト本文(p108-p118)を通読する。		
8週	岸川悦子「えっちゃんの戦争」		満州国、日中戦争について調べる。		
9週	あまんきみこ 「ちいちゃんのかげおくり」		あまんきみこと満州の関わりを調べる。		
10週	野坂昭如『ウミガメと少年』		第二次世界大戦下の沖縄について調べる。		
11週	丸田かね子 「はこちゃんのおひなさま」		東京大空襲、疎開について調べる。		
12週	朽木祥「三つ目の橋」 (『八月の光・あとかた』)		広島原爆について調べる。		
13週	那須正幹「The end of the world」		テキスト本文(p150-p161)を通読する。		
14週	池澤夏樹「十字路口に埋めた宝物」		テキスト本文(p195-p202)を通読。南進政策について調べる。		
15週	レポート提出・これからの児童文学		作成したレポートを提出する。		
【成績評価の方法・基準】演習発表30%、レポート70%を併せて総合的に評価する。 知識・理解：レポートにおいて作品の表現理解度、作品の位置づけがなされているかを評価する。 技能・表現：作品の先行文献にあたり、自分の意見に沿った適切な表現で文献を使っているかを評価する。 思考・判断：作品を通して様々な戦争観を理解し、自らの意見を公正な判断で表現できるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】北原泰邦・中野裕子編『児童文学の愉しみ 20の物語 明治から平成へ』（翰林書房、2014年8月）					
【参考書等】鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』（ミネルヴァ書房、2001年4月）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 発表者以外の学生も作品を通読し、意見交換しながら自らの問題意識を高めてほしいと思います。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
詩・短歌を作る (J214)	1	選択	1年 後期	演習	田中 愛
【キーワード】 短歌の創作、詩の創作、短歌の鑑賞、詩の鑑賞					
【授業内容・授業の目的】 名作とされる詩や短歌を解釈鑑賞し、作品のもつ美しさや豊かさに触れ、感動を生み出す秘密に迫る。韻文に使われる修辞法を学び、創作に取り入れられるようになる。前半は短歌について、後半は詩について学び、創作を行なっていく。詩歌の豊かな鑑賞ができる一方、韻文の創作に使われる技法を効果的に使い、詩や短歌の型を駆使しつつ思っていることを相手に伝わる形で表現できるようになることが目標である。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：短歌・俳句・詩の特徴や修辞法を知り、それぞれの長所を鑑賞・理解できるようになる。 技能・表現：詩や短歌の型を自由に使えるようになり、表現技巧を用いた創作もできるようになる。 思考・判断：お互いの作品を鑑賞し、よりすぐれた表現になるよう批評できるようになる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス	高校までに習った短歌や詩を復習する（60分）			
2週	短歌の歴史	好きな短歌を書き出し、説明できるようにする（60分）			
3週	短歌と俳句の違い	短歌と俳句の違いを調べてくる（60分）			
4週	名歌の鑑賞 短歌の技法一響き	響きのよい短歌を探し、書き出す（60分）			
5週	名歌の鑑賞 短歌の技法一リズム・韻律	リズムのよい短歌を探し、書き出す（60分）			
6週	名歌の鑑賞 短歌の技法一句切れ	句切れのある短歌を探し、書き出す（60分）			
7週	名歌の鑑賞 提出作品 鑑賞と添削	自由テーマで短歌を創作する（60分）			
8週	題詠 短歌発表と添削	題となったテーマで短歌を創作してくる（60分）			
9週	詩とは何か 詩を扱った映画紹介	「詩」の定義を考え、調べる（60分）			
10週	詩を扱った映画鑑賞	好きな詩を書き出し、説明できるようにする			
11週	比喩表現について	日常や小説等から比喩表現を探してくる（60分）			
12週	自分を何かにたとえる詩の創作	自分をたとえる対象を決め、特徴を考え、創作する（90分）			
13週	山田かまちの詩とDVD 提出作品鑑賞と添削	自身の生き方や価値観を見つめる（30分）			
14週	最期に残す詩の創作	自分の人生の要素について書き出してくる（60分）			
15週	提出作品の鑑賞と添削 谷川俊太郎ほか	最期に残す詩を創作する（60分）			
【成績評価の方法・基準】 提出作品70% 小テスト20% 受講態度10% 知識・理解：例に挙げた短歌や詩について、それぞれの特徴や修辞法を指摘できるか小テストで評価する。 技能・表現：創作の詩や短歌において、型が使えているか、表現技巧を取り入れられているか、提出作品を評価する。 思考・判断：自他の作品の添削が行え、よりよい表現を見出せるかを、授業での発言で評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 適宜資料を配布する					
【参考書等】 俵 万智 『短歌を読む』（岩波新書） 大岡信 編 『集成・昭和の詩』（小学館）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業で取り上げる作品以外にも、詩集や歌集をたくさん読んでおくとよいでしょう。詩的なセンスが身につくようになります。宿題となった創作は必ず期限までに提出してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
映画の表現と方法 (J305)	2	選択	2年 前期	講義	北原 泰邦
【キーワード】映画の歴史、映画表現の基礎、サブカルチャー					
【授業内容・授業の目的】欧米と日本における古典的名作から現代の最新作品までの映画作品の流れを知り、「総合芸術」としての映画の表現方法に触れる。映画の成立と発展の歴史を考察しながら、映画作品を鑑賞して、各自の印象や感想を鑑賞文としてまとめる。また、映画史において特筆される出来事や巨匠監督の表現方法にも注目し、その特徴的な作品を紹介することで映画の特性を理解する。					
【授業の到達目標（学習成果）】映画の歴史や表現方法の特徴を学ぶことで、総合芸術としての映画文化を理解する。そのため、実際の映画作品を鑑賞し、作品評価の要点を鑑賞文としてまとめることを目標とする。 (到達目標) 知識・理解：映画作品の歴史や表現方法の特徴を理解することができる。 技能・表現：映画作品の見所を発見し、作品の内容を考えて鑑賞文に表現することができる。 思考・判断：映画監督の表現方法を学び、その特徴がどのように映像化されたかを考えることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス	参考文献の確認(60分)・映画の歴史を調べる(60分)			
2週	映画の創成期 - 無声映画の世界を学ぶ	無声映画の特徴を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
3週	ミュージカル作品の魅力を学ぶ	ミュージカル映画を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
4週	小津安二郎・黒澤明の表現方法を学ぶ	日本映画の歴史を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
5週	日本映画の名作と巨匠監督の作品を学ぶ	日本映画の名作を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
6週	S F 作品の世界を学ぶ	S F 映画の特徴を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
7週	アメリカンニューシネマの時代を探る	アメリカ映画の特徴を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
8週	ヒッチコック作品の手法を学ぶ	サスペンス映画の特徴を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
9週	戦争と映画の関係を学ぶ	戦争映画の特徴を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
10週	映画と原作の比較を学ぶ	原作と映画を比較して調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
11週	80年代の映画の特徴を学ぶ	80年代文化を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
12週	ロードムービーの手法を学ぶ	ロードムービーの特徴を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
13週	アニメーション映画の特質を学ぶ	アニメ映画の特徴を調べる(90分)・関連作品の鑑賞(150分)			
14週	映画の現在 映画の未来を考える	映画の現在の特性を調べる(90分)・鑑賞文の作成(150分)			
15週	映画作品のポイントを整理する	映画作品の鑑賞ポイントをまとめる(360分)			
【成績評価の方法・基準】提出物「映画鑑賞文」(70%)と受講態度(30%) 知識・理解：鑑賞文を通して、映画の歴史や演出方法を理解できたかを評価する。 技能・表現：鑑賞文を通して、映像を通して映画表現の特徴を理解できたかを評価する。 思考・判断：鑑賞文を通して、映画作品に対する解釈・見解を論理的にまとめられたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】資料・映像作品は授業時にプリントなどで配布・提示する。					
【参考書等】『オールタイム・ベスト 映画遺産 200 外国映画篇・日本映画篇』（キネマ旬報社）、『映画の読みかた』（佐藤忠男著・じゃこめってい出版）					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】映画のお手本とも言うべき良質の作品を多く観ながら、映画の魅力を味わいましょう。授業は基本的に2時間続きで、全15回分実施します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
サブカルチャー研究Ⅰ (J303)	2	選択	2年 前期	講義	安西 晋二
【キーワード】サブカルチャー、文化論、都市と地方、特撮、ツーリズム、ソーシャルメディア					
【授業内容・授業の目的】 マンガやアニメ、ゲームなどだけではなく、いまや幅広い分野を指し示す言葉となった〈サブカルチャー〉について、総合的に学ぶ授業である。〈サブカルチャー〉とは何かを考え、それらの文化現象を研究対象として論じる観点の理解を目的とする。 基本的には講義形式で行い、〈サブカルチャー〉の歴史や研究方法を理解する。受講生には、さまざまなテーマに対して積極的な関心をもち、感想や質問等を毎回書くことを求める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 1.〈サブカルチャー〉を現代日本文化として批評する視点をもてるようにする。 2.これからの日本文化のあり方について自分なりの展望をもつことができる。 (到達目標) 知識・理解：社会にかかわる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解しようとする。 思考・判断：さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考えて明確にまとめ、発表できる。 関心・意欲・態度：現代文化にかかわる諸問題に関心を持ち、主体的かつ積極的に探究できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス — 〈サブカルチャー〉とは何か—		〈サブカルチャー〉について調べる。(2時間)		
2週	サブカルチャー概論①—概念規定—		〈サブカルチャー〉の歴史について調べる。(3時間)		
3週	サブカルチャー概論②—歴史的な展開—		前授業時に配布した資料を読んでおく。(3時間)		
4週	サブカルチャー概論③—現代的な用法—		前授業時に配布した資料を読んでおく。(3時間)		
5週	〈オタク〉とは何か①		〈オタク〉について調べる。(2時間)		
6週	〈オタク〉とは何か②		前授業時に配布した資料を読んでおく。(3時間)		
7週	サブカルチャーとしてのローカルヒーロー①		主要な特撮ヒーロー作品を調べ、確認する。(3時間)		
8週	サブカルチャーとしてのローカルヒーロー②		地方と都市との差異を調べる。(3時間)		
9週	市場としての〈2.5次元〉		2.5次元作品について調べ、確認する。(3時間)		
10週	〈コンテンツツーリズム〉と〈聖地巡礼〉		長野県内の〈聖地〉について調べる。(3時間)		
11週	〈聖地巡礼〉から位置情報ゲームへ		前授業時に配布した資料を読んでおく。(3時間)		
12週	インターネットメディアとコミュニケーション		SNSについて調べる。(2時間)		
13週	ソーシャルメディアとVR空間		ソーシャルVRについて調べる。(3時間)		
14週	インターネットのなかの「怪談」		「怪談」について調べる。(3時間)		
15週	都市と地方から考える〈サブカルチャー〉		授業を振り返り、疑問点や課題を見出す。(6時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験（レポート）60%、提出物40% 知識・理解：〈サブカルチャー〉の歴史的背景、意義に関する理解と知識を身に付けられたか、定期試験（レポート）によって評価する。 思考・判断：〈サブカルチャー〉に関連する諸問題を自ら見出し、それを論理的な思考から明確にまとめ、主張できるか、定期試験（レポート）によって評価する。 関心・意欲・態度：授業内容に対して積極的に関心をもち、当該内容に関して主体的な探究が行えるか、提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】毎授業時に資料を配付する。					
【参考書等】宮代真司・石原英樹・大塚明子『増補 サブカルチャー神話解体』ちくま文庫					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業の予定順や講義内容が変わる場合もある。また、個人の趣味や好みを語る場でもない。そのうえで、授業への高い関心と積極的な参加とを求める。以上をふまえて履修をしてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
サブカルチャー研究Ⅱ (J406)	2	選択	2年 後期	講義	安西 晋二
【キーワード】サブカルチャー、文化論、芸能、映像、立体造形、個人発表					
【授業内容・授業の目的】 サブカルチャー研究Ⅰに引き続き講義となる。ただし、本講座では、最終的に個人発表（希望者を募る）を行うため、そこに向けた講義を進めていく。したがって、〈サブカルチャー〉を概観するだけでなく、それをいかに論じるかという方法を意識した授業内容となる。 基本的には講義形式で行い、ゲスト講師を交えながら、〈サブカルチャー〉の歴史や研究方法を理解する。受講生には、さまざまなテーマに対して積極的な関心を持ち、感想や質問等を毎回書くことを求める。					
【授業の到達目標（学習成果）】 1.〈サブカルチャー〉を現代日本文化として批評する視点をもてるようにする。 2.これからの日本文化のあり方について自分なりの展望をもつことができる。 (到達目標) 知識・理解：社会にかかわる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解しようとする。 思考・判断：さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考えて明確にまとめ、発表できる。 関心・意欲・態度：現代文化にかかわる諸問題に関心を持ち、主体的かつ積極的に探究できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス —後期の授業内容と展開について—		サブカルチャーに関する実体験をまとめておく。 (2時間)		
2週	アイドル文化の現在		アイドル文化について調べ、確認する。(3時間)		
3週	ローカルアイドルの展開		授業時に紹介したアイドルについて調べる。 (3時間)		
4週	アイドルから考える〈オタク〉文化		今後のアイドル文化について考える。(3時間)		
5週	テレビゲームの変遷①		ゲームの歴史について調べる。(3時間)		
6週	テレビゲームの変遷②		映像コンテンツの変化について調べる。(3時間)		
7週	テレビゲームの変遷③		現在のゲームをめぐる状況について考える。 (3時間)		
8週	プラモデル文化史①		プラモデルについて調べる。(3時間)		
9週	プラモデル文化史②		ガンプラ・ミニ四駆について調べる。(2時間)		
10週	プラモデル文化史③		ガレージキットについて調べる。(3時間)		
11週	ASMRの世界（サブカルチャー研究の方法・進め方）		ASMRについて調べる。(3時間)		
12週	個人発表①		発表内容を各自レポートにまとめる。(3時間)		
13週	個人発表②		発表内容を各自レポートにまとめる。(3時間)		
14週	個人発表③		発表内容を各自レポートにまとめる。(3時間)		
15週	〈サブカルチャー〉を問い直す		授業を振り返り、疑問点や課題を見出す。(6時間)		
【成績評価の方法・基準】定期試験（レポート）60%、提出物40% 知識・理解：〈サブカルチャー〉の歴史的背景、意義に関する理解と知識を身に付けられたか、定期試験（レポート）によって評価する。 思考・判断：〈サブカルチャー〉に関連する諸問題を自ら見出し、それを論理的な思考から明確にまとめ、主張できるか、定期試験（レポート）によって評価する。 関心・意欲・態度：授業内容に対して積極的に関心を持ち、当該内容に関して主体的な探究が行えるか、提出物によって評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】毎授業時に資料を配付する。					
【参考書等】宮代真司・石原英樹・大塚明子『増補 サブカルチャー神話解体』ちくま文庫					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業の予定順や講義内容が変わる場合もある。また、個人の趣味や好みを語る場でもない。そのうえで、授業への高い関心と積極的な参加とを求める。以上をふまえて履修をしてほしい。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
マンガ研究 (J105)	2	選択	1年 前期	講義	安西 晋二
【キーワード】マンガ史、商業誌、同人誌、表現規制、読者論					
【授業内容・授業の目的】「マンガを研究する」ということの意義、およびその基礎的な方法論を学ぶ講義である。「マンガ」の歴史や表現を考察し、学問的な見地から研究対象としてそれらを論じる観点の獲得を目的とする。 授業は講義形式で行う。「マンガ」の歴史やその具体的な研究方法を学び、理解する。受講生には、「マンガ」に対して積極的な対して積極的な関心をもち、意見や疑問等を毎回小レポートに書くことを求める。					
【授業の到達目標（学習成果）】					
1.「マンガ」を一つの表現として捉え、批評する視点をもてるようにする。 2.「マンガ」に関する独自の課題を見つけ、研究対象として論述できる能力を身につける。 (到達目標) 知識・理解：社会にかかわる幅広い教養及び専門的な知識を身につけ、その本質を理解しようとする。 思考・判断：さまざまな問題・課題を発見し、自ら論理的に考えて明確にまとめ、発表できる。 関心・意欲・態度：現代文化にかかわる諸問題に関心を持ち、主体的かつ積極的に探究できる。					
授業計画			準備学習等		
1週	ガイダンス ー「マンガ」とは何かー	「マンガ」概念について調べる。(2時間)			
2週	マンガの成立および史の変遷①	前授業時に配布した資料を読んでおく。(2時間)			
3週	マンガの成立および史の変遷②	前授業時に配布した資料を読んでおく。(2時間)			
4週	「キャラ」とは何か	「キャラ」概念について調べる。(3時間)			
5週	少年マンガの展開	少年マンガの歴史について調べる。(3時間)			
6週	少女マンガの展開	少女マンガの歴史について調べる。(3時間)			
7週	多様化するジャンル	現在の商業誌マンガの状況について考える。(3時間)			
8週	インターネットとマンガの関係	「WEBマンガ」について調べる。(3時間)			
9週	「n次創作」と同人誌①	同人誌の歴史について調べる。(3時間)			
10週	「n次創作」と同人誌②	「萌え」「擬人化」等について調べる。(3時間)			
11週	マンガ市場とコミックマーケット	コミックマーケットについて調べる。(3時間)			
12週	BLとGL	BL・GLについて調べる。(3時間)			
13週	表現規制の問題	「マンガバッシング」について調べる。(3時間)			
14週	マンガと読者	マンガの読み方について調べる。(3時間)			
15週	マンガ史とマンガ研究の意義	授業を振り返り、疑問点や課題を見出す。(6時間)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(レポート)60%、提出物40% 知識・理解：マンガの歴史的背景、意義に関する理解と知識を身に付けられたか、定期試験(レポート)によって評価する。 思考・判断：マンガに関連する諸問題を自ら見出し、それを論理的な思考から明確にまとめ、主張できるか、定期試験(レポート)によって評価する。 関心・意欲・態度：授業内容に対して積極的に関心をもち、当該内容に関して主体的な探究が行えるか、提出物によって評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】毎授業時に資料を配付する。					
【参考書等】夏目房之介・竹内オサム『マンガ学入門』ミネルヴァ書房					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業の予定順や講義内容が変わる場合もある。また、個々人の好きなマンガを読む授業ではない。そのうえで、授業への高い関心と積極的な参加とを求める。以上をふまえて履修してほしい					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
アニメ論 (J307)	2	選択	2年 前期	講義	小松 祐美
【キーワード】アニメ研究、アニメ批評、アニメ制作の手法、メディアミックス、表現論					
【授業内容・授業の目的】 アニメの表現や制作の手法に関する基礎知識を学んだ後、アニメに固有の表現の特徴に基づいて作品を論じる「アニメ表現論」の考え方と具体的な方法を学んでいきます。授業で学んだ知識と方法を応用することで、アニメ作品の面白さを論理的に説明できるようになることを目的としています。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解：アニメというメディアの表現の特徴を理解し、具体的に説明することができる。 思考・判断：アニメ作品に感じる面白さを、個々の作品の表現の特徴と関連づけることで論理的に説明することができる。 関心・意欲・態度：関心を持つ作品を1つ選び、授業で学んだ内容を発展させて考察し、自分の考えを述べるることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	導入：アニメの面白さを論じる「表現論」とは		アニメに対する印象をまとめておく（2時間）		
2週	基礎知識①：アニメ作品の制作方法		アニメの制作方法について調べておく（3時間）		
3週	基礎知識②：アニメとアニメーションの違い		アニメーションの種類について調べておく（3時間）		
4週	基礎知識③：リミテッド・アニメの特徴		セルアニメやリミテッド・アニメについて調べておく（3時間）		
5週	基礎知識④：手描きと3DCGの手法の違い		3DCGのアニメにはどんなものがあるか調べておく（3時間）		
6週	各論①：「神作画」と「作画崩壊」(1) 作画論		「神作画」と「作画崩壊」の意味や実例を調べておく（3時間）		
7週	各論②：「神作画」と「作画崩壊」(2) キャラの同一性		授業で扱う作品の映像を視聴する（3時間）		
8週	各論③：アニメにおける夢や妄想の描き方		夢や妄想をテーマにした作品を調べて視聴する（4時間）		
9週	各論④：夢や妄想と現実の混交を描く手法		授業で扱う作品の映像を視聴する（3時間）		
10週	各論⑤：「原作に忠実」という言説の意味とは		レポートで扱うアニメ作品を1つ選び、選んだ理由を考えておく（5時間）		
11週	各論⑥：原作とアニメの表現の関係		原作のある作品について比較する方法を検討する（5時間）		
12週	各論⑦：少女マンガの特徴とアニメの特徴の相違点		少女マンガをアニメ化した作品を視聴し、原作との関係を考えておく（5時間）		
13週	各論⑧：少女マンガらしさをアニメで表現するには		これまで学んできた内容をまとめる（6時間）		
14週	各論⑨：「動かさずに動かす」アニメ(1)バトル		学んだことを振り返り、自分が選んだ作品の特徴は何か考える（6時間）		
15週	各論⑩：「動かさずに動かす」アニメ(2)死ぬこと		自分が選んだ作品の面白さを説明するにはどのような方法があるかを考える（6時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）70%、提出物（コメントカード）20%、受講態度10% 知識・理解：提出物と定期試験（レポート）にて、授業内容を正しく理解し、具体的に説明できているかを評価する。 思考・判断：定期試験（レポート）にて、授業内で学んだ表現論の考え方と方法に基づいて、自分が選択した作品に感じる面白さを分析し、論理的に述べているかを評価する。 関心・意欲・態度：定期試験（レポート）にて、選択した作品を独自の視点で考察し論じることができているかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】必要に応じて授業時にプリントを配布する。					
【参考書等】神村幸子『アニメーションの基礎知識大百科』グラフィック社 高瀬康司編『アニメ制作者たちの方法 21世紀のアニメ表現論入門』フィルムアート社 カレン・M・ゴックシク他、土屋武久訳『映画で実践！アカデミック・ライティング』小鳥遊書房					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 授業に関する質問などは、komatsu.honan@gmail.com まで連絡をください。					

